

観光庁資料

(次世代ヘルスケア産業協議会第10回新事業創出WG)

平成30年12月12日

観光庁観光地域振興部

観光資源課

明日の日本を支える観光ビジョン 新たな目標値

安倍内閣 5 年間の成果

戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、**大胆な「改革」**を断行。

- ・ **訪日外国人旅行者数**は、**約3.5倍増**の**2869万人**に
- ・ **訪日外国人旅行消費額**は、**約4倍増**の**4.4兆円**に

(2012年) (2017年)

836万人 ⇒ 2869万人

1兆846億円 ⇒ 4兆4,161億円

新たな目標への挑戦！

訪日外国人旅行者数

2020年 : **4,000万人**
(2015年の約2倍)※

2030年 : **6,000万人**
(2015年の約3倍)※

訪日外国人旅行消費額

2020年 : **8兆円**
(2015年の2倍超)※

2030年 : **15兆円**
(2015年の4倍超)※

地方部での外国人延べ宿泊者数

2020年 : **7,000万人泊**
(2015年の3倍弱)※

2030年 : **1億3,000万人泊**
(2015年の5倍超)※

外国人リピーター数

2020年 : **2,400万人**
(2015年の約2倍)※

2030年 : **3,600万人**
(2015年の約3倍)※

日本人国内旅行消費額

2020年 : **21兆円**
(最近5年間の平均から約5%増)※

2030年 : **22兆円**
(最近5年間の平均から約10%増)※

※ ()内は観光ビジョン策定時である2015年時点との比較

これまでの議論を踏まえた課題

- 我が国の豊富で多様な観光資源を、誇りを持って磨き上げ、その価値を日本人にも外国人にも分かりやすく伝えていくことが必要。
- 観光の力で、地域の雇用を生み出し、人を育て、国際競争力のある生産性の高い観光産業へと変革していくことが必要。
- CIQや宿泊施設、通信・交通・決済など、受入環境整備を早急に進めることが必要。
- 高齢者や障がい者なども含めた、すべての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような社会を築いていくことが必要。

「観光先進国」への「3つの視点」と「10の改革」

視 点 1

「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」

- 「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放
 - ・ 赤坂や京都の迎賓館などを大胆に公開・開放
- 「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ
 - ・ 2020年までに、文化財を核とする観光拠点を全国で200整備、わかりやすい多言語解説など1000事業を展開し、集中的に支援強化
- 「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ
 - ・ 2020年を目標に、全国5箇所の公園について民間の力も活かし、体験・活用型の空間へと集中改善
- おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ
 - ・ 2020年を目途に、原則として全都道府県・全国の半数の市区町村で「景観計画」を策定

視 点 2

「観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」

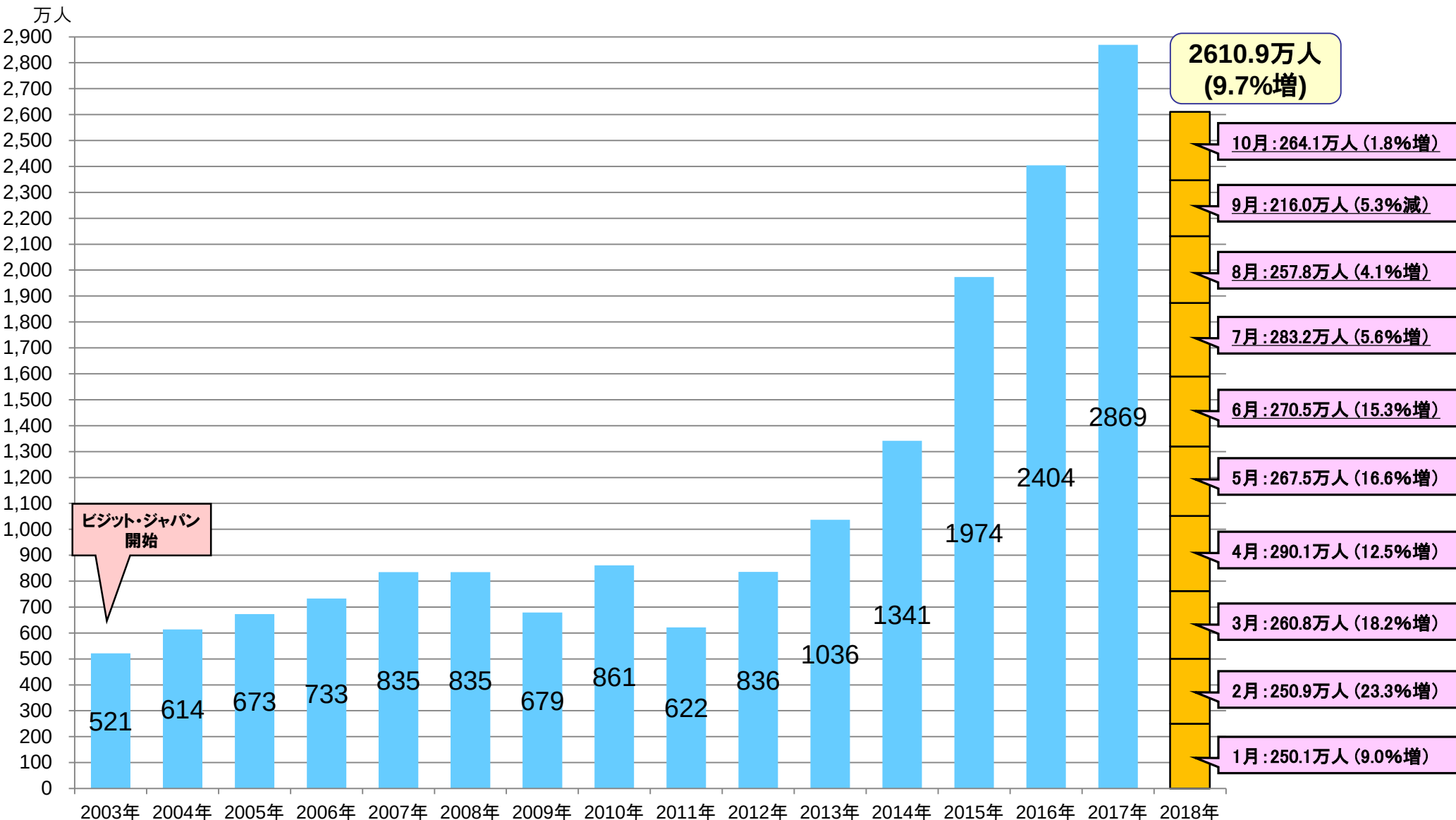
- 古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ
 - ・ 60年以上経過した規制・制度の抜本見直し、トップレベルの経営人材育成、民泊・民泊の整備、宿泊業の生産性向上など、総合パッケージで推進・支援
- あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現
 - ・ 欧州・米国・豪州や富裕層などをターゲットにしたプロモーション、戦略的なビザ緩和などを実施
 - ・ MICE誘致・開催の支援体制を抜本的に改善
 - ・ 首都圏におけるビジネス・観光の受入環境改善
- 疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化
 - ・ 2020年までに、世界水準DMOを全国100形成
 - ・ 観光地再生・活性化ファンド、規制緩和などを駆使し、民間の力を最大限活用した安定的・継続的な「観光まちづくり」を実現

視 点 3

「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」

- ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現
 - ・ 世界最高水準の技術活用により、出入国審査の風景を一変
 - ・ ストレスフリーな通信・交通利用環境を実現
 - ・ キャッシュレス観光を実現
- 「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現
 - ・ 「ジャパン・レールパス」を訪日後でも購入可能化
 - ・ 新幹線開業やコンセクション空港運営等と連動した、観光地へのアクセス交通充実の実現
- 「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現
 - ・ 2020年までに、年次有給休暇取得率70%へ向上
 - ・ 家族が休暇をとりやすい制度の導入、休暇取得の分散化による観光需要の平準化

訪日外国人旅行者数の推移



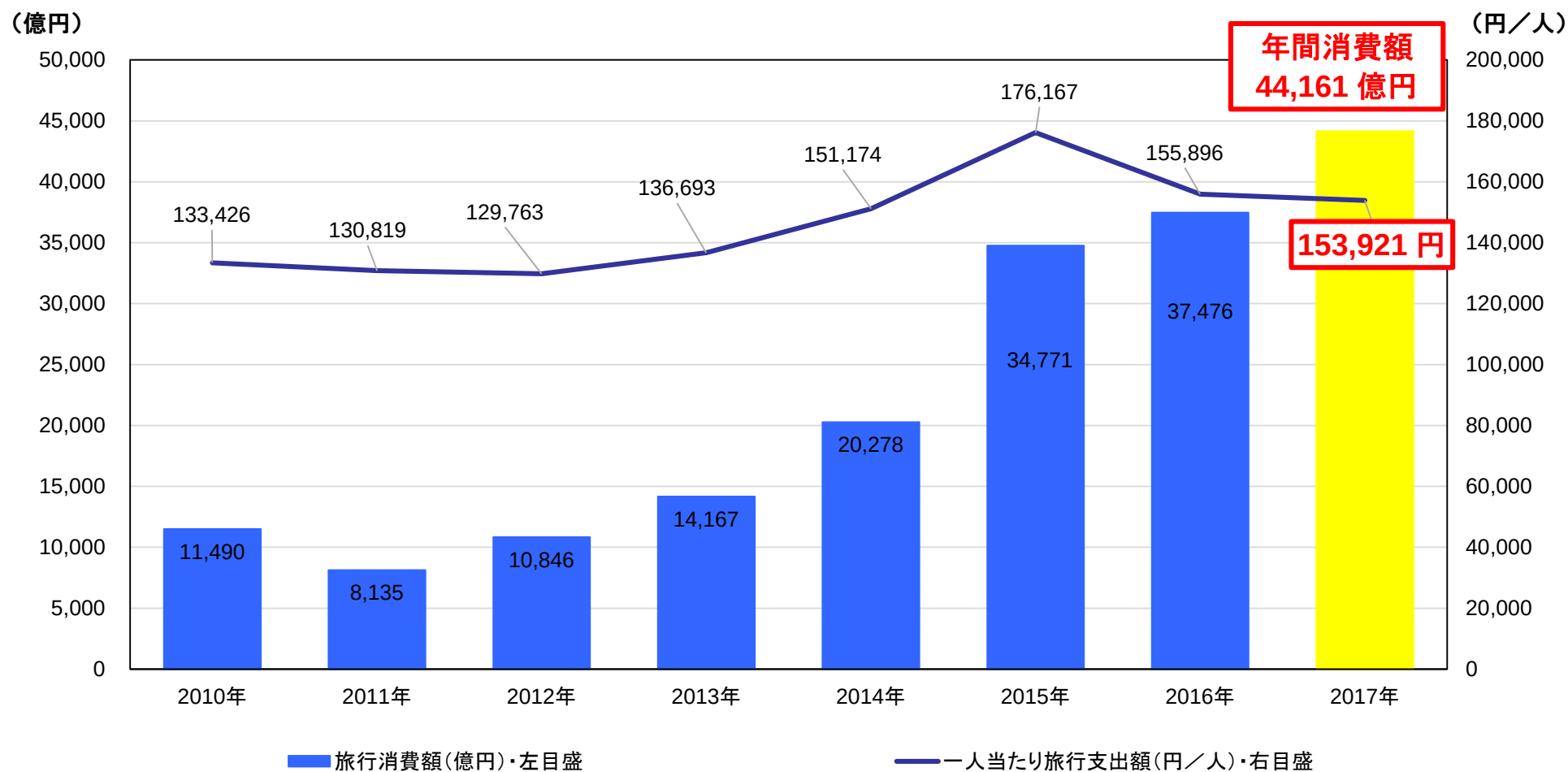
注) 2017年以前の値は確定値、2018年1月～7月の値は暫定値、2018年8～9月の値は推計値、%は対前年同月比

出典: JNTO (日本政府観光局)

訪日外国人旅行消費額の推移

- 2017年の訪日外国人旅行消費額は、前年比17.8%増の4兆4,161億円となり、過去最高。
- 1人当たり旅行支出は前年比1.3%減の15万3,921円。

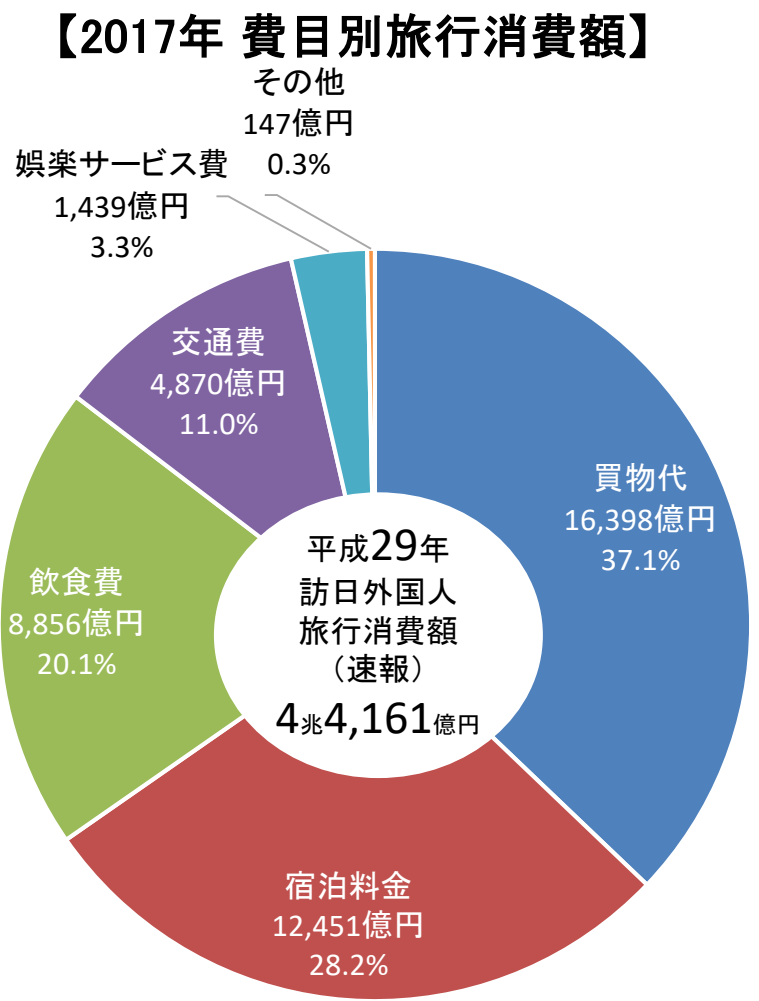
旅行消費額の推移



費目別訪日外国人旅行消費額(2017年速報値)

- 2017年の訪日外国人旅行消費額のうち、買物代は4割弱、宿泊費は3割弱を占める一方、娯楽サービス費は全体の3%に過ぎない。
- 娯楽サービスを上げることにより、宿泊・飲食・交通・買い物等の消費額全体に波及効果を及ぼす。

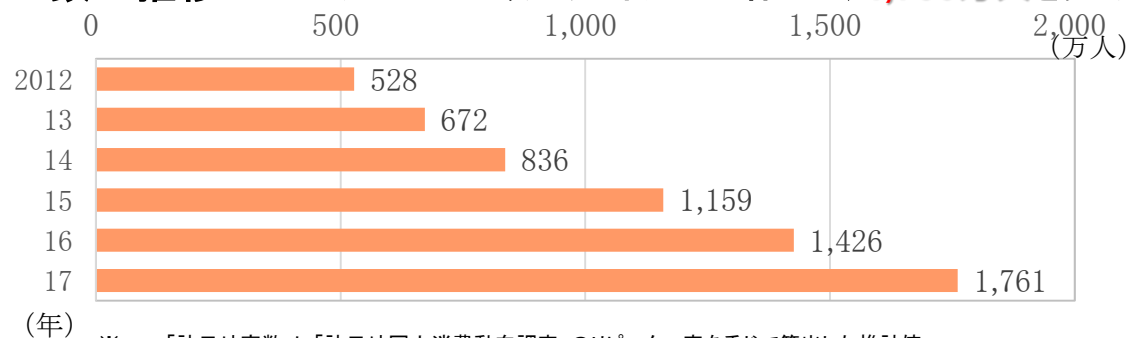
国籍・地域	訪日外国人旅行者1人当たり旅行支出 (円/人)						
	旅行支出 総額	宿泊料金	飲食費	交通費	娯楽 サービス費	買物代	その他
全国籍・地域	153,921	43,397	30,869	16,974	5,014	57,154	513
韓国	71,795	22,378	18,435	7,492	3,665	19,530	294
台湾	125,847	32,939	26,004	14,286	4,458	47,846	314
香港	153,055	42,690	33,129	17,586	4,628	55,017	5
中国	230,382	47,690	38,285	18,295	5,550	119,319	1,243
タイ	126,570	36,957	23,281	14,696	4,107	47,316	212
シンガポール	164,280	63,083	33,308	19,005	4,414	44,349	120
マレーシア	135,749	42,532	28,261	21,106	4,508	39,302	39
インドネシア	129,397	42,593	23,085	22,188	5,098	36,432	1
フィリピン	113,660	31,470	23,765	13,366	5,405	39,654	0
ベトナム	183,229	48,861	43,313	16,381	2,371	72,303	0
インド	157,443	69,506	31,212	21,874	3,268	31,583	0
英国	215,393	97,303	51,289	32,390	6,811	27,600	0
ドイツ	182,206	81,933	39,036	27,867	4,245	29,125	0
フランス	212,443	86,882	45,016	38,882	8,142	33,401	120
イタリア	191,484	86,746	39,658	35,970	5,634	23,312	163
スペイン	212,572	77,940	49,079	45,484	7,166	32,792	112
ロシア	199,220	63,118	41,494	24,903	9,073	60,513	121
米国	182,071	76,719	41,791	28,477	6,603	28,071	411
カナダ	179,529	71,954	41,757	30,316	7,096	28,316	91
オーストラリア	225,866	89,065	50,070	35,380	14,094	37,199	59
その他	212,751	82,833	46,901	35,299	6,967	39,795	956



訪日リピーターの増加による地方部宿泊者数の増加

(1) 訪日リピーター数の推移

～リピーター数は近年大きく増加し、**1,700万人**を突破～

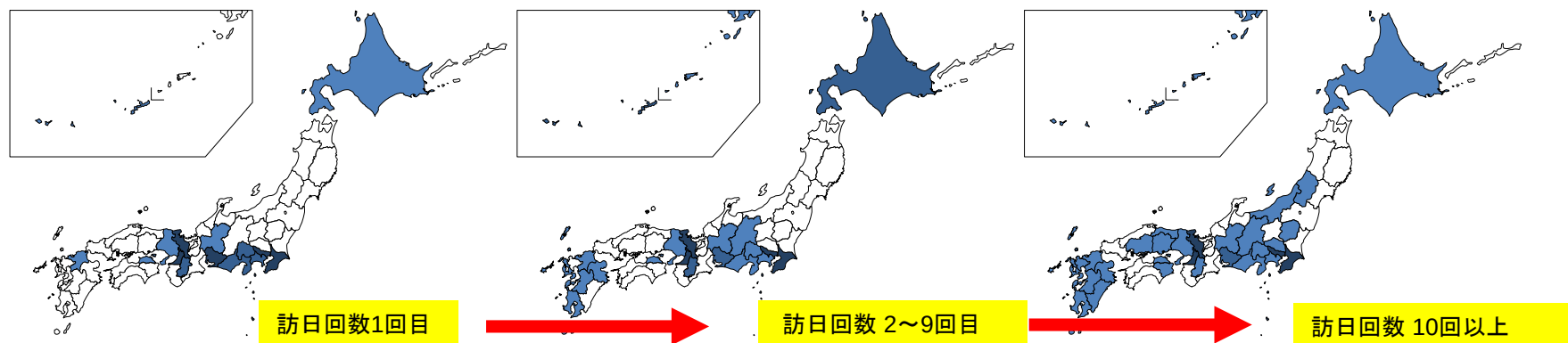


※JNTO「訪日外客数」に「訪日外国人消費動向調査」のリピーター率を乗じて算出した推計値

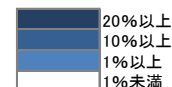
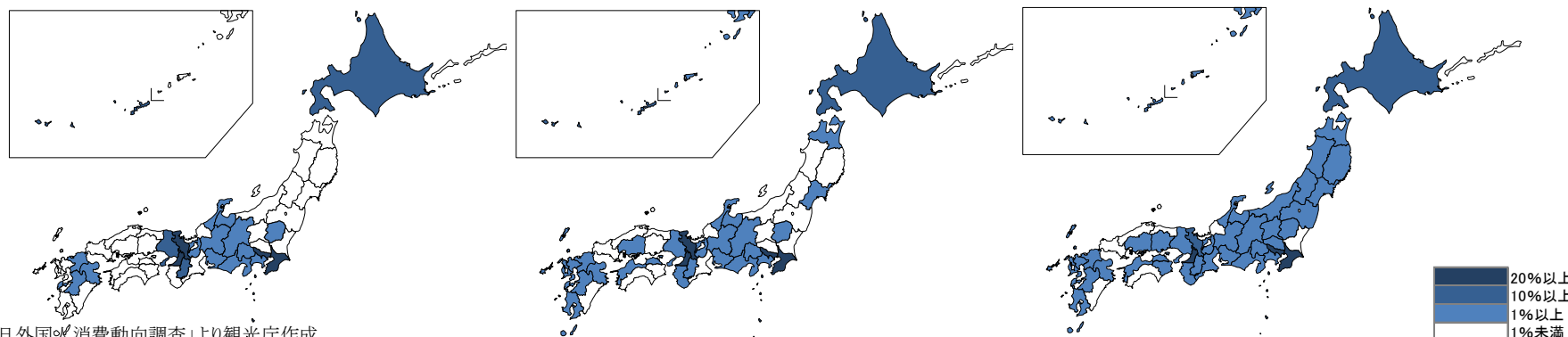
(2) 訪日回数別都道府県訪問率

～リピーターほど地方に訪れる割合が高くなる傾向～

【中国】

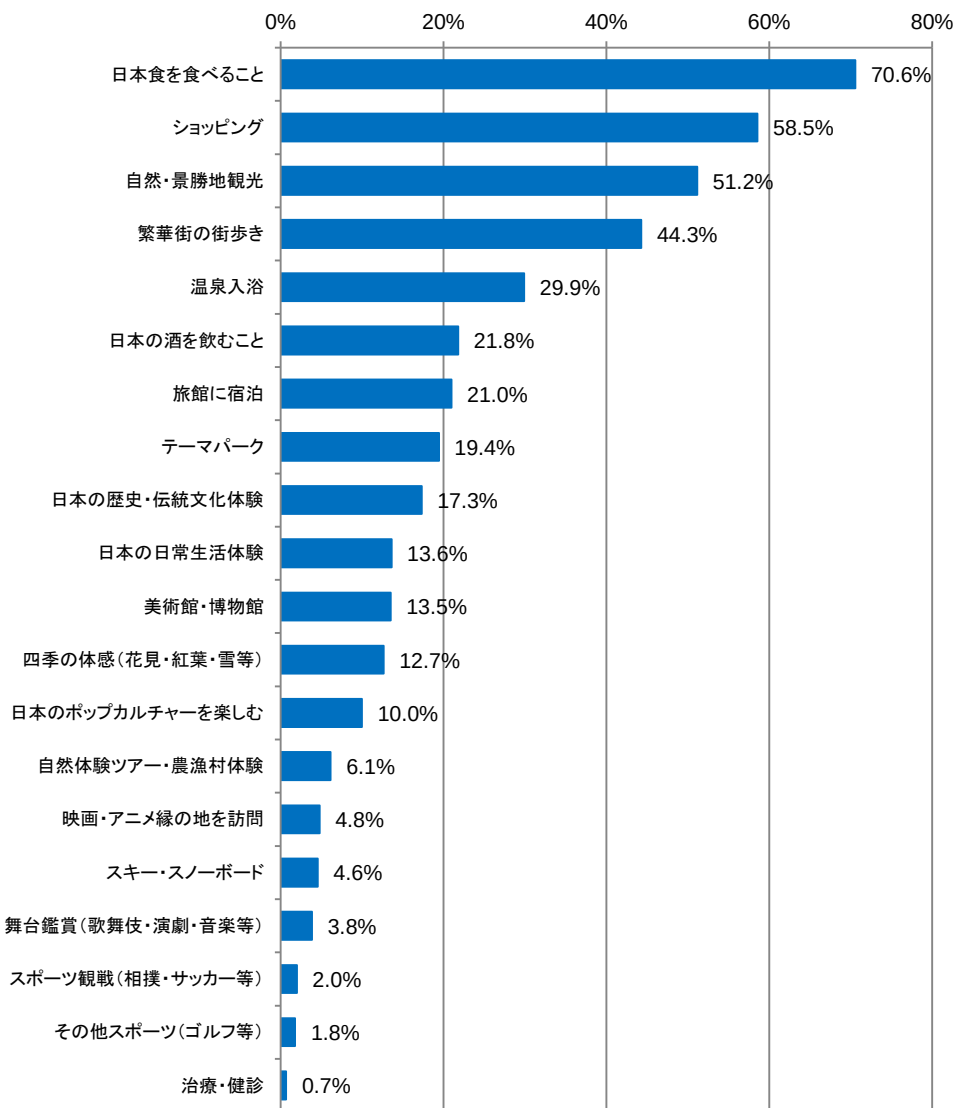


【台湾】

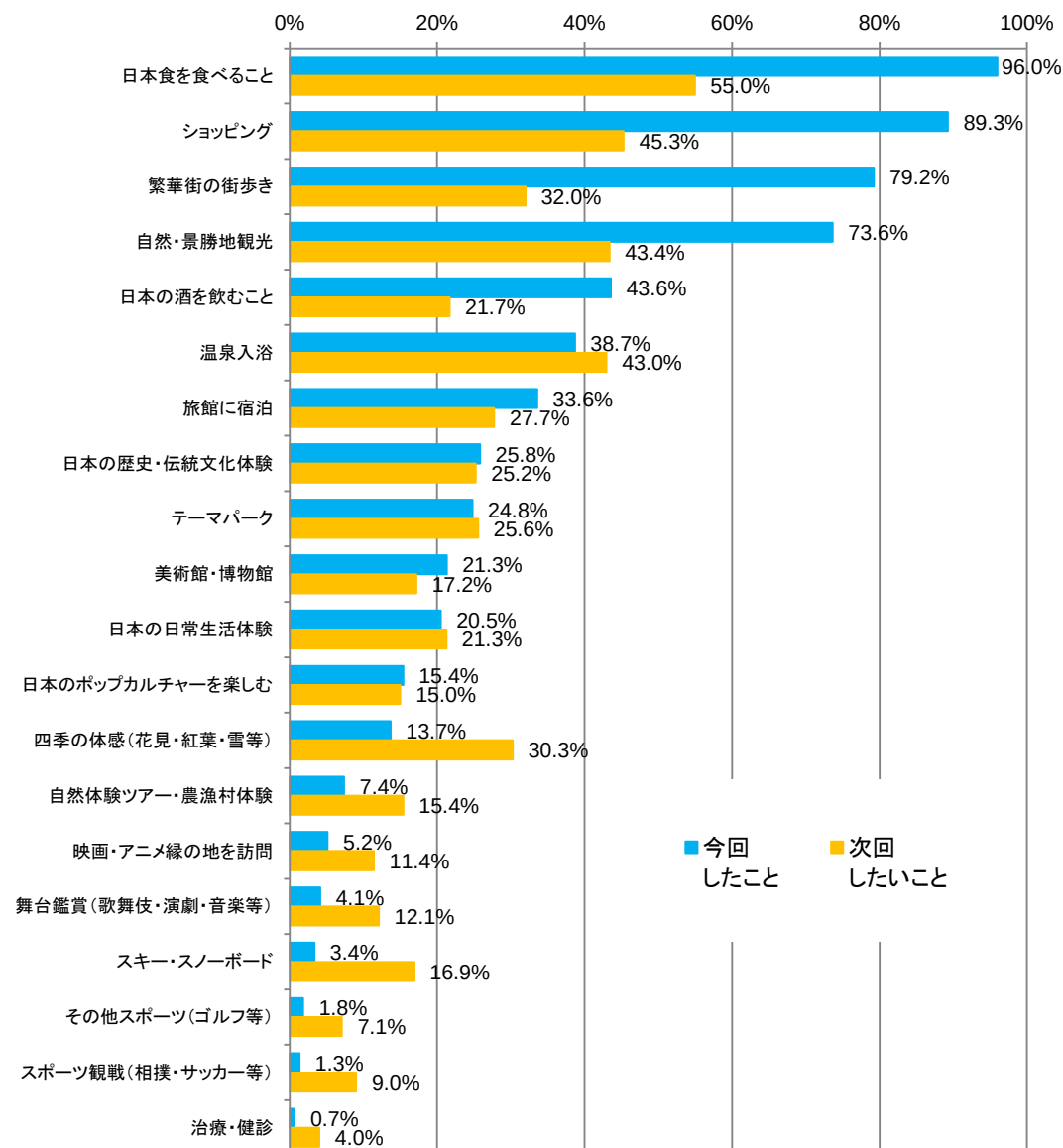


訪日外国人旅行者の訪日前後の関心の変化（2017年）

訪日前に期待していたこと（全体）



今回実施したこと・次回実施したいこと（全体）



テーマ別観光による地方誘客事業

国内外の観光客が全国各地を訪れる動機を与えるため、**特定の観光資源**に魅せられて日本各地を訪れる「**テーマ別観光**」のモデルケースの形成を促進し、地方誘客を図る。

本事業におけるヘルスツーリズム関連の取組

サイクルツーリズム

【自転車を活用した観光振興】

- 各地の名所や隠れたスポットを巡るサイクルコースの設定
- 地元ガイドの養成
- 外国人モニターツアーの実施



全国ご当地マラソン

【マラソンを活用した観光振興】

- 新聞広告や号外紙作成、共同ホームページ等を通じたプロモーションを実施。
- 成功事例共有のためのマラソンサミットを実施。



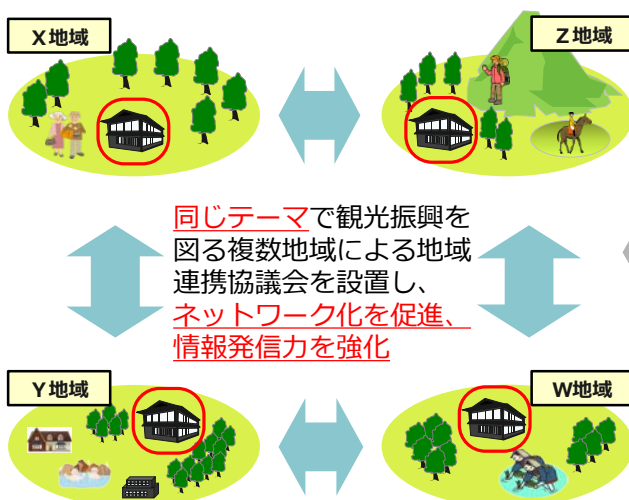
ONSEN・ガストロノミーツーリズム

【温泉地を拠点とし、食や自然等を活用した観光振興】

- 効果的な誘客やPR方法を検討するためのマーケティング調査の実施
- インバウンド獲得のための調査やサイトの多言語化



ネットワーク化のイメージ



本事業で実施できる取組の例

1. 観光客のニーズや満足度を調査するためのアンケートやモニターツアー

- 観光客のニーズやターゲット層の把握等の基礎調査や満足度を検証し、地域資源を磨き上げるためのアンケートやモニターツアー

2. 観光客の受入体制の強化に係る取組

- 1の調査結果等で得られた知見を構成団体間で共有するマニュアルの作成
- 旅行商品の造成

3. 1の調査結果等を踏まえた情報発信

- 共同Webページ、パンフレット、マップの作成
- 各種PR（旅行博等への出展やSNS等を用いた情報発信）

4. ネットワーク拡大に向けた取組

- 同じテーマを観光資源とする団体や地域に関する実態把握のための調査
- シンポジウムやセミナーの開催

期待される効果

旅行者

- 特定のテーマに関心の高い旅行者にとって **より魅力的な旅行を享受**

地域

- 旅行者の複数地域への **来訪需要を創出**
- 地域間で課題や **成功事例を共有** することによる、**効果的な観光振興策を推進**